

**【 専門基礎分野 】 22単位 570時間**

**I. 科目構築の考え方**

専門基礎分野は、看護を学ぶ上で必要な専門的知識を修得する基礎的な内容で構成されており、専門分野への学習をつなぐ分野である。看護学の観点から人体を系統立てて理解する内容として形態機能学Ⅰ～Ⅲを設定する。看護の対象の健康ニーズと健康レベル（健康の保持・増進、疾病の予防、健康の回復、能き死）を的確に判断するために必要な観察力、臨床判断に関する基礎知識を学ぶ内容として、生化学、病理学、疾病論、臨床薬理学、感染管理、治療論、臨床推論の基礎を設定する。臨床推論の基礎では診断の確定と早期治療に繋がる臨床判断の基盤となる臨床推論を学ぶ科目として設定する。対象が自らの価値観に基づき、生涯を通して健康レベルや障害の状態に応じて生活する場について理解を深め、対象に必要な社会資源を保健・医療・福祉の基本概念やシステムの観点から学ぶ内容として地域保健論、社会福祉、関係法規を設定する。さらに、看護の対象の健康レベルの向上や障害の回復を連携しながら支援する関連職種とその役割・機能を学ぶ内容としてリハビリテーション、栄養学を設定する。また、専門職である職業に必要な倫理観や責任感、看護の対象の権利を擁護する意識と態度を育成する内容として医療倫理を設定する。

## II. 授業の概要 (シラバス)

分野	専門基礎分野	科目名 単位 (時間)	形態機能学 I 2 単位 (60 時間)	授業 形態	講義	開講 時期	1 年 前期
講師名 所属	河野 史 (元) 佐賀大学医学部 教授						
授業概要	主にテキストの以下の項目に沿って講義を行う。 ①細胞と組織 ②骨格系 ③筋系 ④神経系 ⑥感覚器系 ⑦血液 ⑧免疫系 ⑨熱産生 ⑩脈管系 ⑪内分泌系 ⑫泌尿器系 ⑬生殖器系						
科目目標	1. 疾病の理解、フィジカルアセスメント、看護診断・技術など看護学の基礎となる人体の構造と機能について、正常な人体がどのような細胞・組織・器官により構成され、これらがどのような機能と対応しているかを系統的かつ局所的に学修する 2. 人体の構造とそれが関与する機能は一体化しているため、看護学の教育においては構造 (解剖学) と機能 (生理学) を融合させながら、骨格模型を用い学修する 3. 生活行動を形態機能学的に理解できる						
テキスト	1. 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院 2. 講師より配布						
参考文献							
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照 ※筆記試験は小テスト含む						
	筆記試験	○	レポート		技術確認		
口頭試問		授業態度		出席状況			
授業計画							
回数	講義内容			教授・学習方法	担当講師		
1	1. 人体の構造と機能を学ぶ意義			講義	河野 史		
2	2. 人体の構成 細胞の構造・機能						
3・4	3. 組織						
5・6	4. 運動系の構造と機能 1) 骨						
7~9	2) 筋						
	中間試験 (30 分間)			試験 (評価)	河野 史		
10	5. 神経系の構造と機能 1) 概要			講義	河野 史		
11	2) 脊髄、脊髄神経						
12	3) 脳幹、小脳、間脳						
13	4) 脳神経						
14	5) 運動に関わる筋と神経						
15	6) 終脳						
16	7) 高次機能						
17	8) 下行性伝導路						
18	9) 上行性伝導路						
19	10) 自律神経、脳室、髄膜						

20・21	6. 感覚器 1) 視覚 2) 聴覚、平衡覚、味覚、嗅覚、皮膚		
	中間試験(40分間)	試験(評価)	河野 史
22	7. 血液 1) 血液、赤血球	講義	河野 史
23	2) 白血球、血小板、血漿タンパク		
24	8. 免疫の基礎		
25	9. 熱産生		
26・27	10. 内分泌系 1) 概論 2) 下垂体 3) 内分泌腺		
28・29	11. 生殖器系		
30	12. 発生 視床下部－前葉－卵巣－子宮の関連性		
	終講試験(30分)	試験(評価)	単位認定者 河野 史

分野	専門基礎分野	科目名 単位 (時間)	形態機能学Ⅱ 2単位 (60時間)	授業 形態	講義 演習	開講 時期	1年 前期
講師名 所属	大坪 香織 東垂水 朋子 上野 敏幸 橋本 沙樹 岩本 聡	嬉野医療センター附属看護学校 嬉野医療センター附属看護学校 嬉野医療センター附属看護学校 嬉野医療センター附属看護学校 嬉野医療センター附属看護学校	教員 教員 教員 教員 教員	実務経験:看護師 19年 実務経験:看護師 15年 実務経験:看護師 7年 実務経験:看護師 12年 実務経験:看護師 12年			
授業概要	主にテキストの以下の項目に沿って講義・演習を行う。 ①呼吸器系 ②循環器系 ③運動器系 ④腎・泌尿器系 ⑤消化器系 ⑥感覚器系 (皮膚)						
科目目標	1. 疾病の理解、フィジカルアセスメント、看護診断・技術など看護学・医療の基礎となる人体の構造と機能について、正常な人体がどのような細胞・組織・器官により構成され、これらがどのような機能と対応しているかを系統的かつ局所的に学修する 2. 人体の構造とそれが関与する機能は一体化しているため、看護学の教育においては構造 (解剖学) と機能 (生理学) を融合させながら、人体の機能を理解するための実験、顕微鏡像の観察も通して修得する 3. 形態機能学Ⅱでは、おもに生命の維持に関わる内臓の構造と仕組みについての知識を身につける						
テキスト	1. 系統看護学講座 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院 2. 看護形態機能学 日本看護協会出版会						
参考文献	1. フィジカルアセスメントガイドブック一目と手と耳でここまでわかる 医学書院						
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照 ※筆記試験は小テスト含む						
	筆記試験	○	レポート		技術確認		
口頭試問		授業態度		出席状況			
授業計画							
回数	講義内容			教授・学習方法		担当講師	
1・2	1. 呼吸器の構造と機能			講義	大坪 香織		
3・4	2. 内呼吸と外呼吸 3. 呼吸器と呼吸運動、呼吸運動の調節						
5・6	4. 呼吸器量、ガス交換とガスの運搬、肺循環と血流						
7・8	5. 循環器系の構造、心臓の構造			講義	東垂水 朋子		
9	6. 心臓の拍出機能 (心臓の興奮とその伝播)						
10	7. 心臓の拍出機能 (心電図)						
11	8. 心臓の拍出機能 (心臓の収縮、心周期、心室の圧-容積関係、心音と心雑音)						
12	9. 末梢循環系の構造 (血管の構造、肺循環の血管)						
13	10. 末梢循環系の構造 (体循環の動脈と静脈)						
14	11. 血液循環の調節 (血圧、血液の循環、血圧・血流量の調節)						
15	12. 血液循環の調節 (微小循環、循環器系の病態生理)、リンパとリンパ管						
	中間試験 (45 分間)			試験 (評価)		東垂水 朋子	

16	13. 皮膚と附属物と粘膜の構造と機能	講義	岩本 聡
17～19	14. 運動と代謝 15. 姿勢 16. 日常生活での基本的動き	講義・演習	上野 敏幸
20	17. 口・咽頭・食道の構造と機能	講義	上野 敏幸
21	18. 胃の構造と機能		
22	19. 小腸の構造と機能、栄養素の吸収と消化		
23	20. 大腸の構造と機能、排泄の意義とアセスメント		
24	21. 肝臓の構造と機能		
25	22. 胆のう・膵臓・腹膜の構造と機能		
26～28	23. 腎・泌尿器系 1) 腎臓の機能 ・濾過 ・再吸収 ・旁装置 ・ホルモンの影響 ・クリアランス 2) 泌尿器の機能 ・膀胱 ・排尿反射 ・性状	講義	橋本 沙樹
29・30	24. 腎・泌尿器系（体液、水分出納、電解質、酸塩基平衡、血圧調節機構）		
	終講試験(45分)	試験（評価）	単位認定者 上野 敏幸

分野	専門基礎分野	科目名 単位 (時間)	形態機能学Ⅲ 1単位 (15時間)	授業 形態	講義 演習	開講 時期	2年 前期
講師名 所属	河野 史 (元) 佐賀大学医学部 教授 上野 敏幸 嬉野医療センター附属看護学校 教員 実務経験:看護師7年						
授業概要	看護を学ぶうえで、生命の営みや身体、疾病、生活などの側面から関与し、人間の健康と生活に深く関わることから、人体の構造や機能についての理解が必要となる。学生主体で各臓器や器官などの模型作りから、人体の構造と機能の関連について説明や発表を行うことで、人体の構造と機能について興味関心を高めることを期待する。模型作成、説明・発表については、形態機能学Ⅰ、形態機能学Ⅱで学んだ知識をもとに、人体の構造と機能を立体的に正しく理解することをねらいとする。						
科目目標	解剖見学や演習を通して、人体の構造(解剖学)を理解できる						
テキスト	1. 看護形態機能学 日本看護協会出版会 2. 系統看護学講座 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学、医学書院						
参考文献							
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照						
	筆記試験	○	レポート	○	技術確認		
口頭試問		授業態度		出席状況			
授業計画							
回数	講義内容			教授・学習方法		担当講師	
1~5	1. 人体の構造と正常な臓器の色・形や器官の名称と部位、構造と機能、各器官の連携			演習 (模型作り等の教材作成)		上野 敏幸	
6・7	2. 人体の構造 1) 臓器、筋肉の位置関係 3. 臓器の形・重さ 事後課題: レポートを作成する			解剖見学		河野 史	
8	終講試験			試験(評価)		単位認定者 上野 敏幸	

分野	専門基礎分野	科目名 単位（時間）	生化学 1 単位（15 時間）	授業 形態	講義	開講 時期	1 年 前期
講師名 所 属	河部 庸次郎 （元）嬉野医療センター 院長 名誉院長						
授業概要	代謝の概略を説明し、生化学を学ぶ意識づけをはかる。その後、それぞれの代謝について学習していき関連づけて学ぶ。講義内容 3 については、解剖学・生理学で既習している細胞の構造と性質を想起させながら、各栄養素の構造と性質について学ぶ。ここでの学びは栄養学の基礎知識となる。						
科目目標	1. 人体を構成している物質の構造や性質を理解できる 2. 人体の体内における代謝とその役割を理解できる						
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔2〕生化学、医学書院						
参考文献	講義中に適宜紹介する						
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照						
	筆記試験	○	レポート		技術確認		
口頭試問		授業態度		出席状況			
授業計画							
回数	講義内容			教授・学習方法	担当講師		
1	1. 代謝とは 2. 物質代謝とエネルギー 3. 生命維持に必要な栄養素の構造と性質			講義	河部 庸次郎		
2	4. 糖質代謝						
3	5. 脂質代謝						
4	6. タンパク質とアミノ酸代謝 7. 核酸・ヌクレオチド代謝						
5	8. 代謝と疾患						
6	9. 遺伝情報						
7	10. ビタミンの構造と性質 11. 酵素、補酵素						
8 (45 分間)	12. まとめ						
	終講試験			試験（評価）	単位認定者 河部 庸次郎		

分野	専門基礎分野	科目名 単位（時間）	病理学 1単位（30時間）	授業 形態	講義	開講 時期	1年 前期
講師名 所属	田場 充 嬉野医療センター 病理診断科医師 大坪 智恵子 嬉野医療センター 病理診断科医師 上野 敏幸 嬉野医療センター附属看護学校 教員 実務経験：看護師7年 岩谷 望美 嬉野医療センター附属看護学校 教員 実務経験：看護師9年						
授業概要	病理学では、臓器の違いをこえて共通にみられる病気について、原因や病気の成り立ちを学ぶ。また、病気によって形態や生理機能に異常な変化が生じることで起こる病的な状態について病態と疾患の関連として学ぶ。細胞免疫系の働きと調節については形態機能学Ⅰ・Ⅱ、生化学、感染管理で教授している内容を想起する。						
科目目標	1. 病気の成り立ち（病因）と身体内での病的変化が理解できる 2. 疾病・病態と症状・徴候の関連と規則性について理解できる						
テキスト	1. 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進〔1〕病理学 医学書院 2. 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進〔2〕病態生理学 医学書院						
参考文献	講義中に適宜紹介する						
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照						
	筆記試験	○	レポート		技術確認		
口頭試問		授業態度		出席状況			
授業計画							
回数	講義内容			教授・学習方法	担当講師		
1	1. 看護と病理学 1) 病気とは 2. 正常と異常			講義	岩谷 望美		
2	3. 内分泌機能と循環機能障害の基礎			講義	大坪 智恵子		
3	4. 細胞・組織の損傷と修復			講義	上野 敏幸		
4	5. 先天異常と遺伝子異常 1) 遺伝の生物学 2) 先天異常 3) 遺伝子の異常と疾患						
5	6. 循環障害（血行障害） 1) 循環系の概要 2) 浮腫 3) 出血と止血 4) 血栓症			講義	大坪 智恵子		
6	7. 炎症と免疫			講義	岩谷 望美		
7	8. 代謝障害 1) 脂質代謝障害 2) タンパク質代謝障害 3) 糖質代謝異常 4) その他の代謝障害			講義	田場 充		
8							
9	9. 老化と死 1) 老化と老年症候群 2) 老化のメカニズムと細胞・組織・臓器の変化						
10							

11	10. 腫瘍 1) 腫瘍の定義と分類	講義	大坪 智恵子
12	2) 腫瘍の発生机序 3) 腫瘍の診断と治療		
13	11. 病態と疾病の関連 1) ショック	講義	田場 充
14	2) 電解質異常		
15	まとめ 終講試験 (45 分)	講義 試験 (評価)	単位認定者 岩谷 望美

分野	専門基礎分野	科目名 単位 (時間)	疾病論 I 1 単位 (30 時間)		授業 形態	講義	開講 時期	1 年 後期
講師名 所 属	院内講師 嬉野医療センター 呼吸器内科医師 院内講師 嬉野医療センター 循環器内科医師							
授業概要	呼吸器機能障害、循環器機能障害により生じる疾患について、病態と症状、疾患を診断するための検査、疾患の治療について学ぶ。							
科目目標	生命維持機能である呼吸・循環機能障害がおこる疾患の病態、症状、検査及び内科的治療について理解できる							
テキスト	1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔2〕 呼吸器 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔3〕 循環器 医学書院							
参考文献	講義中に適宜紹介する							
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照							
	筆記試験	○	レポート		技術確認			
口頭試問		授業態度		出席状況				
授業計画								
回数	講義内容				教授・学習方法	担当講師		
1・2	1. 呼吸器機能障害におこりやすい症状と病態生理 1) 咳嗽と喀痰 2) 血痰、喀血と吐血 3) 胸痛 (胸壁由来) 4) チアノーゼ 5) 呼吸異常 6) 呼吸困難 7) いびき 8) 意識障害 (CO <sub>2</sub> ナルコーシス、過換気)				講義	呼吸器内科医師		
3・4	2. 呼吸機能障害の検査・診断 1) 診察 (問診～聴診) 時のアセスメント 2) 検査の種類とアセスメント 3) 診断の流れ							
5～8	3. 呼吸機能障害がおこる疾患と治療 1) 肺炎 2) 気管支拡張症 3) 気管支喘息 4) 慢性閉塞性肺疾患 5) 呼吸不全 6) 肺がん							
9	4. 循環器機能障害でおこりやすい症状と病態生理 1) 呼吸困難 2) 胸痛 3) 動悸 4) 失神・めまい 5) 間欠性跛行 6) チアノーゼ 7) 浮腫 8) ショック				講義	循環器内科医師		

10	5. 循環機能障害の検査・診断 1) 診断時のアセスメントと循環器症状の診断 2) 検査の種類とアセスメント 3) 診断の流れ	講義	循環器内科医師
11	6. 循環機能障害がおこる疾患と治療 1) 血圧異常		
12	2) 心不全 3) 心筋疾患		
13	4) 弁の異常 5) 先天性心疾患		
14	6) 血管異常性疾患 7) 虚血性心疾患		
15	8) 不整脈		
	終講試験	試験（評価）	単位認定者 呼吸器内科医師

分野	専門基礎分野	科目名 単位 (時間)	疾病論Ⅱ 1単位 (30時間)	授業 形態	講義	開講 時期	1年 後期
講師名 所属	院内講師 院内講師 院内講師 院内講師	嬉野医療センター 嬉野医療センター 嬉野医療センター 嬉野医療センター	消化器内科医師 糖尿病・内分泌内科医師 リウマチ科医師 歯科口腔外科医師				
授業概要	咀嚼・消化・吸収機能障害、内分泌・代謝機能障害、代謝機能障害、免疫機能障害により生じる疾患について、病態と症状、疾患を診断するための検査、疾患の治療について学ぶ。消化・吸収機能障害により生じる疾患については内視鏡による治療について学ぶ。						
科目目標	咀嚼・消化・吸収機能障害、内分泌・代謝機能障害、免疫機能がおこる疾患と特徴と治療について理解できる						
テキスト	1. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[5] 消化器 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[6] 内分泌 医学書院 3. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[10] 運動器 医学書院 4. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[11] アレルギー・膠原病・感染症 医学書院 5. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[15] 歯・口腔 医学書院						
参考文献	講義中に適宜紹介する						
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照						
	筆記試験	○	レポート		技術確認		
口頭試問		授業態度		出席状況			
授業計画							
回数	講義内容			教授・学習方法	担当講師		
1	1. 消化・吸収機能障害におこりやすい症状と病態生理			講義	消化器内科医師		
2	2. 消化・吸収機能障害の検査・診断						
3～5	3. 消化・吸収機能障害の疾患と内科的治療 1) 食道の疾患と内科的治療 2) 胃・十二指腸の疾患と内科的治療 3) 腸および腹膜疾患と内科的治療						
6・7	4) 肝臓・胆嚢の疾患と内科的治療 5) 膵臓の疾患と内科的治療						
8	4. 内分泌系におこりやすい症状とその病態生理						
9	5. 内分泌・代謝機能障害の検査・診断			講義	糖尿病・内分泌内科医師		
10	6. 内分泌機能障害の疾患と内科的治療 1) 視床下部一下垂体前葉系疾患 2) 視床下部一下垂体後葉系疾患 3) 甲状腺疾患 4) 副甲状腺疾患 5) 副腎疾患 6) 消化管ホルモン産生腫瘍 7) 多発性内分泌腫瘍症						

11・12	7. 代謝機能障害の疾患と内科的治療 1) 糖尿病 2) 脂質異常症 3) 肥満症とメタボリックシンドローム 4) 尿酸代謝異常	講義	糖尿病・内分泌 内科医師
13	8. 免疫機能障害の疾患と治療 1) 膠原病 (1) 全身エリテマトーデス (2) 慢性関節リウマチ (3) 強皮症 (4) シェーグレン症候群	講義	リウマチ科医師
14	9. 歯・口腔におこりやすい症状とその病態生理 1) 疼痛 2) 出血 3) 開口障害 4) 咀嚼・嚥下障害 5) 口臭 6) 口腔乾燥 7) 味覚障害	講義	歯科口腔外科医 師
15	10. 歯・口腔機能障害の検査・診断 11. 疾患と治療		
	終講試験	試験(評価)	単位認定者 消化器内科医師

分野	専門基礎分野	科目名 単位 (時間)	疾病論Ⅲ 1 単位 (30 時間)		授業 形態	講義	開講 時期	1 年 後期
講師名 所属	院内講師 院内講師 院内講師 院内講師	嬉野医療センター 嬉野医療センター 嬉野医療センター 嬉野医療センター	整形外科医師 泌尿器科医師 腎臓内科医師 耳鼻咽喉科医師					
授業概要	運動器系、腎・泌尿器系・耳鼻咽喉系の機能障害により生じる疾患について、病態と症状、疾患を診断するための検査、疾患の治療について学ぶ。							
科目目標	1. 運動・排泄機能障害がおこる疾患の特徴と治療について理解できる 2. 感覚機能障害がおこる疾患の特徴と治療について理解できる							
テキスト	1. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[10] 運動器 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[8] 腎・泌尿器 医学書院 3. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[14] 耳鼻咽喉 医学書院							
参考文献	講義中に適宜紹介する							
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照							
	筆記試験	○	レポート		技術確認			
口頭試問		授業態度		出席状況				
授業計画								
回数	講義内容				教授・学習方法	担当講師		
1	1. 運動器系におこりやすい症状とその病態生理 1) 関節異常				講義	整形外科医師		
2	2) 四肢変形							
3	3) 運動障害・知覚障害							
4	2. 運動器系の検査と診断							
5	3. 運動機能障害がおこる疾患と治療 1) 骨関節の異常							
6	2) 神経損傷							
7	3) 炎症性疾患 4) 腫瘍性疾患の種類と特徴							
8・9	4. 腎・泌尿器系におこりやすい症状とその病態生理 1) 血尿・たんぱく尿 2) 排尿障害				講義	泌尿器科医師		
10	5. 泌尿器系の検査と診断							
11	6. 排尿障害がおこる疾患と治療 1) 前立腺肥大症 2) 炎症性疾患 3) 腫瘍性疾患							
12	7. 腎機能の検査と診断 8. 腎機能障害がおこる疾患と治療 1) 炎症性疾患 2) 腎機能障害				講義	腎臓内科医師		

13	3) 高血圧と腎障害		
14	9. 耳鼻咽喉系におこりやすい症状とその病態生理 10. 耳鼻咽喉系の検査と診断	講義	耳鼻咽喉科医師
15	11. 耳鼻咽喉系の主な疾患と治療		
	終講試験	試験(評価)	単位認定者 整形外科医師

分野	専門基礎分野	科目名 単位 (時間)	疾病論IV 1 単位 (30 時間)	授業 形態	講義	開講 時期	2 年 前期
講師名 所属	院内講師 院内講師 院内講師 高松 正憲 古賀 佑一 近藤 正道 田口 航也 宮園 正之 吉田 真一郎	嬉野医療センター 嬉野医療センター 嬉野医療センター 嬉野医療センター 嬉野医療センター 嬉野医療センター 嬉野医療センター 嬉野医療センター 長崎医療センター	消化器外科医師 消化器外科医師 消化器外科医師 心臓血管外科医師 心臓血管外科医師 呼吸器・乳腺外科医師 呼吸器・乳腺外科医師 脳神経外科医師 血液内科医師				
授業概要	消化器系、循環器系、呼吸器系、脳神経系の機能障害により生じる疾患の中で外科的治療が必要な疾患について、代表的な術式と術後合併症を学ぶ。また、血液・リンパ系の機能障害による疾患の病態と症状、疾患を診断するための検査、疾患の治療について学ぶ。						
科目目標	1. 開胸術、開腹術、開心術、開頭術等代表的な術式と術後合併症について理解できる 2. 生体防御機能障害がおこる疾患の特徴と治療について理解できる						
テキスト	1. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [5] 消化器 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [3] 循環器 医学書院 3. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [2] 呼吸器 医学書院 4. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [6] 内分泌・代謝 医学書院 5. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [9] 女性生殖器 医学書院 6. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [7] 脳神経 医学書院 7. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [4] 血液・造血器 医学書院						
参考文献	講義中に適宜紹介する						
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照						
	筆記試験	○	レポート		技術確認		
口頭試問		授業態度		出席状況			
授業計画							
回数	講義内容			教授・学習方法	担当講師		
1	1. 消化器系の外科的治療と術後合併症 1) 開腹術と術後合併症 2) 代表的な術式と術後合併症 (1) 食道再建術			講義	消化器外科医師		
2	(2) 胃切除術と胃全摘術						
3	(3) 肝切除術 (4) 臍頭十二指腸切除術						
4	(5) 人工肛門造設術 (6) 結腸切除術						
5	2. 循環器系の外科的治療と術後合併症 1) 開心術と術後合併症 2) 代表的な術式と術後合併症 (1) 冠動脈バイパス術 (2) 弁置換術			講義	高松 正憲		
6	(3) 解離性大動脈瘤と外科的治療 (4) 腹部大動脈瘤と外科的治療				古賀 佑一		

7	3. 補助循環装置の適応と循環管理 1) IABP 2) PCPS		高松 正憲
8	4. 呼吸器系の外科的治療と術後合併症 1) 開胸術と術後合併症 2) 代表的な術式と術後合併症 (1) 肺切除術	講義	近藤 正道
9	(2) 術後の全身管理		
10	5. 内分泌系の外科的治療と術後合併症 1) 甲状腺摘出術と術後合併症	講義	田口 航也
11	2) 乳房切除術の種類と術後合併症		
12	6. 脳神経系の外科的治療が必要な疾患 1) 頭部外傷 (1) 頭蓋底骨折 (2) 硬膜下血腫 7. 開頭術と術後合併症	講義	宮園 正之
13	8. 脳神経系の外科的治療と術後合併症 1) 代表的な術式と術後合併症 (1) 開頭血腫除去術 (2) 腫瘍摘出術 (3) クリッピング術、シャント術 (4) 脳血管内治療		
14	9. 血液・リンパ系におこりやすい症状とその病態生理 1) 貧血 2) 白血球数変動 3) 脾腫 4) リンパ節腫脹 10. 造血機能系の検査・診断 1) 末梢血液検査 2) 骨髄穿刺・骨髄生検 3) 出血傾向の検査: 出血時間・プロトロンビン時間 (PT)、部分トロンボプラスチン時間 (PTT)	講義	吉田 真一郎
15	11. 造血器の疾患と治療 1) 赤血球系の異常 (1) 赤血球増加症 (2) 再生不良性貧血 2) 白血球系の異常 (1) 白血球減少症 (2) 無顆粒球症 3) リンパ球の異常 (1) 悪性リンパ腫の種類 4) 出血性疾患 (1) 紫斑病 (2) 血友病 (3) 汎発性血管内症候群 5) 造血器の腫瘍と治療 (1) 白血病・骨髄移植 (2) 形質細胞腫 (3) 多発性骨髄腫		

	終講試験	試験評価)	単位認定者 消化器外科医 師
--	------	-------	----------------------

分野	専門基礎分野	科目名 単位 (時間)	疾病論V 1 単位 (30 時間)	授業 形態	講義	開講 時期	2 年 前期
講師名 所属	小杉 雅史 嬉野医療センター 神経内科医師 岩切 亮 嬉野医療センター 眼科医師 稲吉 咲穂 嬉野医療センター 皮膚科医師 藤原 恵美子 嬉野医療センター 産婦人科医師						
授業概要	脳神経系の機能障害、眼・皮膚の機能障害、女性生殖器の機能障害により生じ疾患の病態と症状、疾患を診断するための検査、疾患の治療について学ぶ。						
科目目標	認知機能・感覚機能・生殖機能障害がおこる疾患の特徴と治療について理解できる						
テキスト	1. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [7] 脳神経 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [13] 眼 医学書院 3. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [12] 皮膚 医学書院 4. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [9] 女性生殖器 医学書院						
参考文献	講義中に適宜紹介する						
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照						
	筆記試験	○	レポート		技術確認		
口頭試問		授業態度		出席状況			
授業計画							
回数	講義内容			教授・学 習方法	担当講師		
1	1. 脳神経系におこりやすい症状とその病態生理 2. 脳神経系の検査・診断			講義	小杉 雅史		
2	3. 脳神経系の疾患と内科的治療 4. 脳脊髄液循環障害の疾患と内科的治療						
3	5. 腫瘍性疾患と内科的治療 6. 脳・神経系の感染症の疾患と内科的治療						
4	7. 神経・筋疾患と内科的治療 8. てんかんの内科的治療						
5	9. 中枢神経障害の疾患と内科的治療 10. 脱髄性疾患と内科的治療 11. 末梢神経障害の疾患と内科的治療						
6	12. 眼疾患におこりやすい症状とその病態生理			講義	岩切 亮		
7	13. 眼疾患の検査・診断						
8	14. 眼疾患と治療						
9	15. 皮膚機能障害におこりやすい症状とその病態生理 16. 皮膚科の検査・診断			講義	稲吉 咲穂		
10	17. 皮膚疾患と治療						
11							
12	18. 女性生殖器でおこりやすい症状とその病態生理			講義	藤原 恵美子		
13	19. 女性生殖器疾患の検査・診察・診断						
14	20. 女性生殖器疾患と治療						
15	1) 子宮の疾患 2) 卵巣の疾患 3) 骨盤内炎症性疾患 4) 月経異常・月経随伴症状 5) 更年期障害 6) 不妊症 7) 不育症 8) 性感染症						
	終講試験			試験 (評価)	単位認定者 小杉 雅史		

分野	専門基礎分野	科目名 単位 (時間)	治療論 1 単位 (30 時間)	授業 形態	講義	開講 時期	1 年後期												
講師名 所属	院内講師 院内講師 院内講師 院内講師 院内講師 院内講師 伊藤 学	嬉野医療センター 嬉野医療センター 嬉野医療センター 嬉野医療センター 嬉野医療センター 嬉野医療センター 佐賀大学医学部	消化器外科医師 麻酔・緩和医療科医師 医師 (化学療法) 医師 (免疫療法) 放射線科医師 臨床工学技士 講師																
授業概要	この科目では、医学における主な治療法の基礎知識を学ぶ科目である。具体的には手術療法、放射線療法、薬物療法の中でも化学療法について学ぶ。その他の薬物療法については臨床薬理学の科目で学ぶ。運動療法はリハビリテーションの科目で学び、栄養食事療法は栄養学の科目で学ぶ。また、絶え間なく進歩する治療法について移植と再生医療として学ぶ。さらに、治療に用いられる医療機器の原理や取り扱いについて学ぶ。授業は主にテキストに沿って進める。ここでの学修が専門分野における看護を学ぶ科目に関連する。																		
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 術療法の適応や身体侵襲と生体反応を理解できる</li> <li>2. 麻酔の種類と目的による身体への影響や効果を理解できる</li> <li>3. 放射線療法の目的および原則を理解できる</li> <li>4. 化学療法の目的および留意点を理解できる</li> <li>5. 医療機器の原理を理解し、医療機器の安全な使用と留意点が理解できる</li> <li>6. 移植と再生医療について理解し、治療の発展と展望を理解できる</li> </ol>																		
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院</li> <li>2. 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論 医学書院</li> <li>3. 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院</li> <li>4. 系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院</li> <li>5. 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 [1] 病理学 医学書院</li> </ol>																		
参考文献	1. 系統別看護学講座 専門基礎 解剖生理学 医学書院																		
評価方法	<p>詳細は別紙「評価計画」参照</p> <table border="1"> <tr> <td>筆記試験</td> <td>○</td> <td>レポート</td> <td></td> <td>技術確認</td> <td></td> </tr> <tr> <td>口頭試問</td> <td></td> <td>授業態度</td> <td></td> <td>出席状況</td> <td></td> </tr> </table>							筆記試験	○	レポート		技術確認		口頭試問		授業態度		出席状況	
筆記試験	○	レポート		技術確認															
口頭試問		授業態度		出席状況															
授業計画																			
回数	講義内容			教授・学習方法	担当講師														
1・2	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 手術療法の目的と意義</li> <li>2. 術前診察と検査</li> <li>3. 外科的手術手技</li> <li>4. 低侵襲手術</li> <li>5. 手術侵襲と生体の反応</li> </ol>			講義	消化器外科医師														
3・4	6. 麻酔の種類と特徴			講義	麻酔・緩和医療科医師														
5	<ol style="list-style-type: none"> <li>7. 術前管理</li> <li>8. 術中管理</li> <li>9. 術後管理</li> </ol>																		
6	10. 緩和医療																		
7	<ol style="list-style-type: none"> <li>11. 放射線療法とは</li> <li>12. 放射線療法の目的</li> <li>13. 放射線療法の適応</li> <li>14. 放射線療法の種類と特徴</li> </ol>			講義	放射線科医師														

8	15. 放射線療法の進め方 16. 放射線障害と放射線防護		
9	17. 化学療法の特徴 18. 化学療法の原理 19. 化学療法の副作用 20. 化学療法の目的 21. 抗がん剤曝露からの防護	講義	医師
10	22. 免疫療法	講義	医師
11～14	23. 医療機器の原理と実際 1) 心電図モニター 2) 人工呼吸器 3) 輸液ポンプ、シリンジポンプ 4) 低圧持続吸引器 5) Aライン 6) 自動式体外除細動器 (AED)	講義・演習	臨床工学技士
15	8. 移植と再生医療	講義	伊藤 学
	終講試験	試験 (評価)	単位認定者 消化器外科医師

分野	専門基礎分野	科目名 単位（時間）	臨床推論の基礎 1単位（15時間）	授業 形態	講義 演習	開講 時期	1・2年 後期
講師名 所属	黒木 和哉 嬉野医療センター 総合診療科医 小川 喜久恵 嬉野医療センター 診療看護師 山田 祐子 嬉野医療センター附属看護学校 教員 実務経験:看護師16年						
授業概要	本科目は、臨床判断能力の基盤となる思考の強化を目指し、「対象把握の技術」で修得したフィジカルアセスメント技術、「疾病論Ⅰ～Ⅴ」で学んだ疾病の症状・検査・治療に関する知識および「成人・老年看護方法論Ⅰ～Ⅵ」で学んだ看護介入等の知識を用いて学習を進める。臨床の場で遭遇する様々な事柄について、様々な知識や経験に基づいて解釈や分析を行う。患者の状況把握を行い、理解しようとする思考を身につけ、患者のケアに根拠をもって決定を下す過程を身につけたい。臨床推論とは何か、臨床推論の種類を学び、患者に生じている現象から看護診断に至る臨床推論の実践について事例を通して学ぶ。						
科目目標	1. 事例を通して臨床推論の過程を理解し、適切な臨床判断ができる						
テキスト	1. 臨床判断ティーチングメソッド 医学書院 2. 看護過程に沿った対症看護 学研メディカル秀潤社 3. 系統看護学講座テキスト全巻						
参考文献	1. 緊急度を見抜く！バイタルサインからの臨床推論						
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照						
	筆記試験	○	レポート	○	技術確認		
口頭試問			授業態度		出席状況		
授業計画							
回数	講義内容			教授・学習方法		担当講師	
1	1. 臨床判断と臨床推論 2. タナーの臨床判断モデル 1) 臨床判断モデルの4つのフェーズ 2) 「気づく」「解釈」「反応」「省察」の理解			講義		山田 祐子	
2	3. 疾病の診断の実際 1) 臨床推論とは 2) 臨床推論の種類 3) 臨床推論の実際			講義		黒木 和哉	
3・4	4. 状況理解のための解釈 1) 熟達のモデル 2) 思考発話 5. 批判的思考 1) クリティカルシンキング 2) 解釈の種類 ① 分析的推論 ② 直観的推論 ③ 説話的推論 6. ディスカッションの重要性 1) ブリーフィングとデブリーフィング 7. リフレクション			講義		小川 喜久恵	
5～7	8. 臨床推論を用いた看護診断過程 1) 腹痛のある患者の臨床推論			演習		山田 祐子	
8	終講試験			試験（評価）		単位認定者 山田 祐子	

分野	専門基礎分野	科目名 単位（時間）	臨床薬理学 1単位（30時間）		授業 形態	講義	開講 時期	1年 後期
講師名 所属	院内講師 嬉野医療センター 薬剤師							
授業概要	薬物療法の基礎知識について主に講義で学ぶ。臨床薬理学での学びは基礎看護学で学ぶ与薬の技術の基礎知識となる。							
科目目標	1. 臨床に即した安全で有効な薬物治療の実践を目指し、薬物療法の基本を理解できる 2. 薬物の効き方や副作用の出方を生体全体の反応として臨床的に捉えられる基本的な知識・態度を習得できる							
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 [3] 薬理学 医学書院							
参考文献	講義中に適宜紹介する							
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照							
	筆記試験	○	レポート		技術確認			
口頭試問		授業態度		出席状況				
授業計画								
回数	講義内容				教授・学習方法	担当講師		
1・2	1. 薬理学の基礎知識				講義	薬剤師		
3	2. 末梢での神経活動に作用する薬物							
4	3. 中枢神経系に作用する薬物							
5	4. 漢方薬							
6	5. 抗アレルギー薬・抗炎症薬							
7・8	6. 循環器系に作用する薬物							
9	7. 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物							
10	8. 物質代謝に作用する薬物							
11	9. 抗感染症薬							
12	10. 抗がん薬、免疫治療薬							
13	11. 皮膚科用薬・眼科用薬							
14	12. 救急の際に使用される薬物							
15	13. 服薬指導							
	終講試験							

分野	専門基礎分野	科目名 単位（時間）	感染管理 1単位（30時間）	授業 形態	講義 演習	開講 時期	1年 前期
講師名 所属	佐々木 英祐 嬉野医療センター 呼吸器内科医師 院内講師 嬉野医療センター 臨床検査技師 森 佑太朗 嬉野医療センター 感染管理認定看護師						
授業概要	微生物は人間の生活と密接にかかわっており、環境を豊かにしたり食を豊かにしたりするためにはなくてはならないパートナーである。一方で微生物には病気をおこすものも存在する。感染管理では、感染症を引き起こす要因となる微生物の種類や特徴を学び、感染症の理解を深める。また、感染症予防のための対策について学ぶ。						
科目目標	1. 感染症の要因となる微生物の種類、特徴を学び、病原微生物の特徴と感染症について理解できる 2. 院内感染の発生要因、院内感染予防対策について理解できる						
テキスト	1. 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[4]微生物学 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2]基礎看護技術 I 医学書院						
参考文献	講義中に適宜紹介する						
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照						
	筆記試験	○	レポート		技術確認		
口頭試問		授業態度		出席状況			
授業計画							
回数	講義内容			教授・学習方法	担当講師		
1	1. 微生物と私たちの生活			講義	佐々木 英祐		
2	2. 微生物と人の病気						
3	3. 細菌感染の基礎			講義	臨床検査技師		
4	4. 真菌・ウイルス感染の基礎						
5	5. 感染症と発症			講義	佐々木 英祐		
6	6. 細菌感染の予防と治療						
7	7. 免疫						
8	8. 病原微生物の特徴と感染症			講義	臨床検査技師		
9	1) 細菌感染症						
10	2) 真菌感染症						
11	3) ウイルス感染症						
12	9. 院内感染とは 1) 院内感染の定義 2) 日和見感染症とは 3) 院内感染症の発生要因			講義	森 佑太朗		
13	10. 院内感染予防対策について 1) 感染に対する患者への対策（演習） 2) 感染経路の対策 3) 感染源自体への対策						
14	11. 院内感染対策の実際 1) 院内感染対策の組織について 2) 院内感染対策の役割と活動内容						

14	12. 変貌する感染症と対策 1) MRSA 2) VRE 3) 緑膿菌 4) 多剤耐性結核菌 5) O157 と HUS		
15	6) C型肝炎ウイルス 7) HIV 8) MARS 9) 結核 10) エボラ出血熱 11) ジカ熱 12) 新型コロナウイルス感染症	講義	森 佑太郎
	終講試験	試験（評価）	単位認定者 佐々木 英祐

分野	専門基礎分野	科目名 単位 (時間)	栄養学 1 単位 (30 時間)	授業 形態	講義	開講 時期	1 年 前期
講師名 所 属	飛奈 卓郎 金子 友美 院内講師	長崎県立大学 看護栄養学部 教授 嬉野医療センター 管理栄養士 嬉野医療センター 薬剤師					
授業概要	看護領域の専門家を目指す学生が、栄養素の体内での機能や代謝について学び、栄養と生体の関わりを理解することで、種々の疾病に対して適切な食事指導ができるようになることを目的とする。そのため、栄養と生体の関わりを中心に人間にとっての食・栄養の意義、エネルギー代謝、食事栄養療法の基礎的知識と他職種との連携による NST 活動とその意義について学ぶ。非経口的な栄養摂取について薬剤師よりその組成について学ぶ。						
科目目標	1. 人間にとっての栄養の意義及び栄養素の種類とはたらきを理解できる 2. NST(栄養のサポートチーム)の活動とその意義、看護師の役割について理解できる						
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の機能と構造[3] 栄養学 医学書院 系統看護学講座 別巻 栄養食事療法 医学書院						
参考文献	講義中に適宜紹介する						
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照						
	筆記試験	○	レポート		技術確認		
口頭試問		授業態度		出席状況			
授業計画							
回数	講義内容			教授・学習方法	担当講師		
1	1. 栄養とは 2. 看護における栄養学を学ぶ意義			講義	飛奈 卓郎		
2	3. 栄養素の種類と働き 1) 糖質と健康 2) 糖質の種類と働き 3) タンパク質と健康 4) タンパク質の種類と働き						
3	5) 脂質と健康 6) 脂質の種類と働き						
4	7) ビタミンと健康 8) ミネラルと健康						
5	4. 水分と健康 5. 消化・吸収とエネルギー代謝						
6	6. 栄養ケアマネジメント 1) 栄養スクリーニング 2) 栄養アセスメント・ケア計画 3) 栄養モニタリング・評価						
7	7. ライフサイクルと栄養 各期における栄養摂取のポイント						
8	8. 臨床栄養 1) 病院食の意義と種類 2) 栄養補給法 (1) 経腸栄養法 (2) 経腸栄養剤の種類、合併症			講義	金子 友美		

9～13	3) 疾患別食事療法の実際 (1) 循環器疾患患者の食事療法 (2) 胃・腸疾患患者の食事療法 (3) 肝臓・胆嚢・膵臓疾患患者の食事療法 (4) 栄養・代謝疾患患者の食事療法 (5) 腎疾患患者の食事療法 (6) 血液疾患患者の食事療法 (7) 骨粗鬆症患者の食事療法 (8) 摂食・嚥下障害患者の食事療法	講義	金子 友美
14	9. NST の活動と意義		
15	10. 静脈栄養法 1) 静脈栄養法の適応と種類 2) 静脈栄養剤の種類 3) 静脈栄養の合併症	講義	薬剤師
	終講試験	試験 (評価)	単位認定者 飛奈 卓郎

分野	専門基礎分野	科目名 単位（時間）	地域保健論 1 単位（15 時間）	授業 形態	講義	開講 時期	1 年 前期
講師名 所属	蒲原 知愛子 保健師 劔持 葉子 肥前精神医療センター 教育研修係長						
授業概要	1. 健康の保持増進、疾病予防としてのヘルスケアシステムについて、現在の疾病構造の変化や在宅療養の動向踏まえた制度を学ぶ。 2. 公衆衛生、保健統計より現代社会の健康問題の動向や課題を学ぶ。 3. 現在のヘルスケアシステムに基づいた地域保健活動の実際と学校保健、産業保健について学ぶ。						
科目目標	1. 健康の保持増進、疾病予防としてのヘルスケアについて理解できる 2. 健康指標の統計情報を読み取り、現代社会の健康問題の動向や課題を理解できる 3. 現在の疾病構造の変化や在宅療養を踏まえた制度とそれに基づく地域保健活動の実際について理解できる						
テキスト	1. 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[2] 公衆衛生 医学書院 2. 国民衛生の動向						
参考文献	資料は適宜紹介する						
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照						
	筆記試験	○	レポート		技術確認		
口頭試問		授業態度		出席状況			
授業計画							
回数	講義内容			教授・学習方法		担当講師	
1	1. 地域保健の概念と変遷			講義		劔持 葉子	
2・3	2. 現在の公衆衛生システムと政策						
4	3. 地域保健と保健統計 4. 健康と生活環境						
5・6	5. 地域保健活動への取り組みの基本的考え 1) 地域における保健活動 (1) 母子保健 (2) 歯科保健 (3) 成人保健 (4) 高齢者保健 (5) 精神保健			講義		蒲原 知愛子	
7	(6) 障害者・難病保健 (7) 災害保健						
8	2) 健康障害に対する保健活動 (1) 感染症						
	終講試験			試験（評価）		単位認定者 劔持 葉子	

分野	専門基礎分野	科目名 単位（時間）	関係法規 1単位（30時間）	授業 形態	講義	開講 時期	3年 前期												
講師名 所属	村上 由紀 森 貴志 佐野 浩史 佐藤 隆司 南園 奨	嬉野医療センター附属看護学校 嬉野医療センター 嬉野医療センター 嬉野医療センター 嬉野医療センター 嬉野医療センター	教育主事 管理課長 企画課長 経営企画室長 専門職 薬剤師		実務経験：看護師 21年														
授業概要	1. 看護師が医療関係職種との協働チームとして看護実践を遂行するために必要な関係法規を網羅する。 2. 国家免許を有する医療職種の一員として、国民の健康とQOLに関するニーズに応じた質の高い看護を実践するために必要な関係法規を理解する。そのため、医療チームの管理者を中心にした講師陣による関係法規について実務レベルの具体的な事例や資料を提供する。																		
科目目標	法の基本的知識ならびに保健医療関係の法規を学び、医療従事者としての業務と責任および看護の役割を理解できる																		
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[4] 看護関係法令 医学書院																		
参考文献	1. 看護六法 看護行政研究会編集 新日本法規 2. 国民衛生の動向 厚生労働統計協会																		
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:15%;">筆記試験</td> <td style="width:15%; text-align: center;">○</td> <td style="width:15%;">レポート</td> <td style="width:15%;"></td> <td style="width:15%;">技術確認</td> <td style="width:15%;"></td> </tr> <tr> <td>口頭試問</td> <td></td> <td>授業態度</td> <td></td> <td>出席状況</td> <td></td> </tr> </table>							筆記試験	○	レポート		技術確認		口頭試問		授業態度		出席状況	
筆記試験	○	レポート		技術確認															
口頭試問		授業態度		出席状況															
授業計画																			
回数	講義内容			教授・学習方法		担当講師													
1	1. 法の概念 2. 衛生法の概念			講義		村上 由紀													
2	3. 厚生労働行政のしくみ			講義		佐野 浩史													
3	4. 看護に関連する諸制度 1) 国レベルの看護行政 2) 近年の看護制度等に関する検討会			講義		村上 由紀													
4~7	5. 看護法 1) 保健師助産師看護師学校養成所指定規則 2) 看護師等の人材確保の促進に関する法律 3) 看護関連法規の規定と根拠			講義・演習															
8・9	6. 医事法 1) 医療法 2) 医療関係資格法			講義		南園 奨													
10	7. 医療を支える法律 1) 医療・介護の提供に関する法 2) 移植医療に関する法 3) 地域振興における看護に役割に関する法 4) 人の死に関する法 5) 緊急時の看護・医療に関する法																		
11	8. 保健衛生法 1) 共通保健法                      2) 分野別保健法 3) 感染症に関する法              4) 食品に関する法 5) 環境衛生法			講義		佐藤 隆司													

12	9. 社会保険法 1) 医療・介護の費用保障 2) 年金	講義	経営企画室長
13	10. 薬務法 1) 医療品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律 2) 人などの組織を用いた医療関連法 3) 薬害被害者の救済 4) 麻薬・薬物などの法	講義	薬剤師
14	11. 労働に関する法律 1) 労働法 2) 社会基盤整備に関する法律	講義	森 貴史
15	12. 環境法 1) 環境保全の基本法 2) 公害防止 3) 自然保護法		
	終講試験	試験（評価）	単位認定者 村上 由紀

分野	専門基礎分野	科目名 単位（時間）	社会福祉 1単位（30時間）	授業 形態	講義 演習	開講 時期	2年 前期
講師名 所属	丸山 貴志 長崎国際大学 人間社会学部社会福祉学 講師						
授業概要	国民が健康で文化的な幸福な生活送っていくためには社会福祉の仕組みが必要である。この点を踏まえて、社会福祉の歴史、理論、制度について講義する。さらに、社会環境が変化するなかで、国民の保健・医療・福祉のニーズがどうなっているのか考え理解できるように関連する法制度やサービスの活用について講義する。						
科目目標	1. 社会福祉の発達、理論、社会福祉制度と社会保障制度について理解できる 2. 社会環境が変化する中で、国民のニーズを把握した法制度、サービスの活用について理解できる						
テキスト	1. 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[3] 社会保障・社会福祉 医学書院						
参考文献	講義中に適宜紹介する						
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照						
	筆記試験	○	レポート		技術確認		
口頭試問		授業態度		出席状況			
授業計画							
回数	講義内容			教授・学習方法		担当講師	
1	1. 日本における社会福祉の概要と社会保障、介護保険の概要			講義		丸山 貴志	
2	2. 高齢者の保健・医療・福祉						
3	3. 介護保険制度						
4	4. 貧困の理解と生活保護法						
5	5. 公的扶助と所得保障						
6	6. 児童と家庭生活						
7	7. 身体障害者の保健・医療・福祉						
8	8. 知的障害者の保健・医療・福祉						
9	9. 精神障害者の保健・医療・福祉						
10	10. ひとり親家庭の保健・医療・福祉 母子および父子並びに寡婦福祉						
11	11. 地域福祉の基本的考え方と医療介護総合確保推進法						
12	12. ソーシャルワークの基礎 1) ケアマネジメント 2) スーパービジョン 3) ネットワーキング						
13	13. 医療保険制度と患者の医療福祉ニーズ						
14	14. 退院時社会復帰の看護 1) 成年後見制度 2) 自立支援プログラムと雇用制度と就労支援 3) 病気による家庭生活の崩壊に対する修復						
15	15. 看護における社会福祉の活用						
	終講試験			試験（評価）		単位認定者 丸山 貴志	

分野	専門基礎分野	科目名 単位 (時間)	リハビリテーション 1 単位 (15 時間)	授業 形態	講義 演習	開講 時期	2 年 前期
講師名 所属	嬉野医療センター 理学療法士 嬉野医療センター 作業療法士 嬉野医療センター 言語聴覚士						
授業概要	リハビリテーションの概念と実際を講義・演習をとおして学ぶ。						
科目目標	1. リハビリテーションの意義と障害をもつ対象の特徴について理解できる 2. 各機能障害のリハビリテーションの方法と指導方法について理解できる						
テキスト	系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院						
参考文献	講義中に適宜紹介する						
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照						
	筆記試験	○	レポート		技術確認		
	口頭試問		授業態度		出席状況		
授業計画							
回数	講義内容			教授・学習方法	担当講師		
1	1. リハビリテーション総論 1) リハビリテーションの定義と概念 2) リハビリテーションの対象と特徴 3) 障害者分類と構造(ICIDH-1、ICF) 4) リハビリテーション領域とサービスの場 5) リハビリテーションにおけるチームアプローチ 6) リハビリテーションにおける看護師の役割			講義	理学療法士		
2	2. リハビリテーションの実際 1) 脳血管障害のアセスメントの方法と実際			講義	作業療法士		
3	2) 嚥下リハビリテーション			講義	言語聴覚士		
4	3) 運動疾患のアセスメントの方法と実際 (1) 骨折 (2) リウマチ			講義	理学療法士		
5	4) 呼吸器の構造・機能 (1) 呼吸不全、慢性閉塞性肺疾患 (2) 慢性閉塞性肺疾患のリハビリテーション			講義			
6	5) 心筋梗塞・心不全のアセスメントの方法と実際 (1) 心筋梗塞後プログラム、心臓リハビリテーション			講義			
7 ・ 8(45分)	3. リハビリテーションの実際 (事例患者の実技演習) 1) 起位・移乗動作 2) シーティング 3) 歩行器・杖の使用方法 4) 安全な移動動作の為の看護			演習			
	終講試験			試験 (評価)	単位認定者 理学療法士		

分野	専門基礎分野	科目名 単位 (時間)	医療倫理 1 単位 (15 時間)	授業 形態	講義 演習	開講 時期	1 年 後期
講師名 所属	力武 一久 嬉野医療センター院長 医師 山田 祐子 嬉野医療センター附属看護学校 教員 実務経験：看護師 16 年						
授業概要	人間の行動の規範である内的規範、外的規範、フライの倫理原則について理解したうえで、看護者の責任を自覚し、看護者の倫理的判断にもとづく行動の重要性を学ぶ。ICN、日本看護協会の倫理綱領より、看護が引き受ける責任の範囲を明確にし、看護者が自己の実践を振り返る際の基盤となることを学ぶ。また、患者の尊厳、権利擁護、守秘義務、安全確保など具体的な場面や事例を通して考えることにより、学生のうちから、対象となる患者・家族の立場に立ち、倫理的判断にもとづく行動ができるようになることをねらいとする。 本講義内容は、2 年次の解剖見学の機会において「医の倫理」について再度熟考する。						
科目目標	1. 倫理学の基本的な考え方を学び、倫理的にものごとを考えるとはどういうことかを理解する 2. 生命に関する倫理的問題について理解し、対処する思考力を身につける 3. 人の健康にかかわる職業につく者としての倫理的諸問題に対処する思考力を養う						
テキスト	1. 系統別看護講座 専門分野 基礎看護学 [1] 看護学概論 医学書院 2. 系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院						
参考文献							
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照						
	筆記試験	○	レポート	○	技術確認		
口頭試問		授業態度		出席状況			
授業計画							
回数	講義内容			教授・学習方法		担当講師	
1	1. 倫理の基礎 1) 倫理とは 2) 価値と規範 3) 倫理と道徳 4) 倫理と法律の違い 5) 職業と倫理 2. 看護倫理の基礎 1) 看護倫理とは、その歴史的推移 2) 看護倫理の必要性 3) ナースの価値観 ナイチンゲール誓詞			講義		山田 祐子	
2	3. 医療における倫理的問題 1) 生命倫理 4. 医療に関する倫理・規範の歴史的概観 1) ヒポクラテスの誓い 2) ニュルンベルグ綱領 3) ジュネーブ宣言 4) ヘルシンキ宣言			講義		力武 一久	
3	5. 医療における倫理的問題 1) 先端医療と倫理 2) 遺伝子治療と倫理 3) 人生の最終段階の医療と倫理						

	6. インフォームド・コンセント		
4～6	7. 看護職の責任 1) 法的責任 2) 倫理的責任 8. 看護情報と守秘義務 1) ナースに課せられた守秘義務 2) 医療現場における守秘義務とその要件 9. 倫理綱領 1) 国際看護師協会(ICN)「看護師の倫理綱領」 2) 日本看護協会「看護者の倫理綱領」 10. 徳の倫理 「よい看護」について 11. 原則の倫理 フライの倫理原則 12. 看護倫理に関する概念 1) コンパッション 2) ケアリング 3) アドボカシー 4) 権利擁護	講義・演習	山田 祐子
7	13. 看護倫理・倫理的ジレンマ 1) ジョンセン4分割表を用いた事例分析	講義・演習	
8	2) 臨床における倫理的問題の検討		
	終講試験	試験（評価）	単位認定者 山田 祐子